

# 保育者、教員養成校における「読み聞かせ」に関する一考察

「保育内容表現・言葉」に着目して

古川洋子 山田禮子

愛知学泉大学

## A study of storytelling at training college of primary school teacher and nursery nurse

Focusing on childcare contents of expression and language

Yoko Furukawa Reiko Yamada

キーワード：養成校 Child Care Training School 5領域 Five Areas 絵本 Picture book  
幼稚園教育要領 Course of study for Kindergarten

### 1. はじめに

2018年3月31日に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定された。改定された大きなポイントの一つに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。幼稚園教育要領解説書には次のように示されている。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づいて、各幼稚園で幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時に見られる具体的な姿である<sup>1)</sup>。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、5領域の中から選んだものである。(図1)また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、卒園するまでに達成すべき目標ではない。教師が指導を行なう際に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿」を具体的にイメージしながら、日々の保育を行っていくことが重要である。さらに、小学校の学習指導要領の「教育課程の編成」の項には、幼稚園や保育園、認定こども園から育ちを引き継いで、カリキュラムを組む必要性が次のように示されている。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資

質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること<sup>2)</sup>。

表1 5領域と10の姿の関連図

5領域	10の姿
健康	①健康な心と体
人間関係	②自立 ③協同性 ④道徳・規範性の芽生え ⑤社会生活との関わり
環境	⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
言葉	⑨言葉による伝え合い
表現	⑩豊かな感性と表現

幼稚園と小学校の両者が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして、教育内容や指導方法について、情報交換や合同の研究の機会を計画的に設けるなどして連携し、円滑な接続を図ることが求められている。

こどもの生活専攻の学生は、保育士、幼稚園教諭、小学校教師の3つの免許を取得することができる。しかし、小学校の教員の免許を取得するための教科の教員と、保育士、幼稚園教諭の免許を取得するための教科の教員が、授業内容について情報を交換す

ることは、古川が本学に着任してからなかった。今回の研究を通して、教員同士が授業内容について情報を交換し連携することで、学生にとって、よりよい授業となる手掛かりにしたい。

## 2. 「こども文学」での取り組み

「こども文学」の授業では、「読み聞かせ」活動を中心にして、読書の目標を理解し、発達段階に応じた本の選定方法・読み聞かせの工夫及び、子どもの言葉の受け止め方・広げ方を学ぶ。

### (1) 国語科教育の範疇における読書活動

国語科教育の範疇において、子どもの読書活動を推進するための一方法として、「読み聞かせ」を取り上げる。

新学習指導要領（国語）の下での、段階的な読書指導の目標は、次に掲げるとおりである。

<p>第2 各学年の目標及び内容</p> <p>[第1学年及び第2学年]</p> <p>1 目標</p> <p>(3) 言葉がもつよさを<u>感じる</u>とともに、<u>楽しんで</u>読書をし、国語を大切に<u>して</u>、<u>思いや考え</u>を伝え合おうとする態度を養う。</p> <p>[第3学年及び第4学年]</p> <p>1 目標</p> <p>(3) 言葉がもつよさに<u>気付く</u>とともに、<u>幅広く</u>読書をし、国語を大切に<u>して</u>、<u>思いや考え</u>を伝え合おうとする態度を養う。</p> <p>[第5学年及び第6学年]</p> <p>1 目標</p> <p>(3) 言葉がもつよさを<u>認識</u>するとともに、<u>進んで</u>読書をし、国語の大切さを<u>自覚</u>して、<u>思いや考え</u>を伝え合おうとする態度を養う。</p>
--

※新学習指導要領抜粋 傍線部分は筆者加筆

国語科の掲げる読書の目標は、低学年・中学年・高学年と段階的になっている（筆者加筆傍線部分）。そこを踏まえつつも、一単元の学習から発展して本を紹介する場合や、折に触れて読書に親しませる場合があり、その目的は一樣ではない。

本稿では、語彙を増やすことや読解力を養うことといった直接的な効果を目的とせず、学級の子どものたちの実態に合わせ、折に触れて読書に親しませる

場合を取り上げる。意図をもった「読み聞かせ」をして本に親しませた結果、子どもたちに読解力が付いたり語彙や想像力が豊かになったりということは、伴ってくるだろうとは考えている。

なお、本稿では、小学校低学年を中心に「読み聞かせ」活動の指導法を考察し、幼児期指導との関連を模索する。

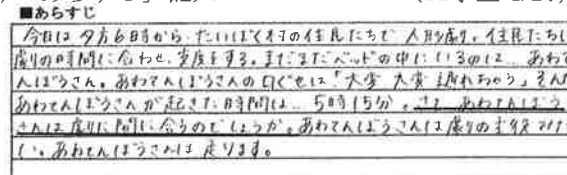
### (2) 『本の紹介カード』を使った準備の方法

指導者が、本を読み聞かせようとするとき、教科書に紹介されているからという理由で安易に本を選び、工夫することなく臨むとしたら、子どもたちの本に親しむ思いは育ちにくい。また、本の魅力を十分に伝えきれない。そこで、指導者としては準備の質が重要となる。

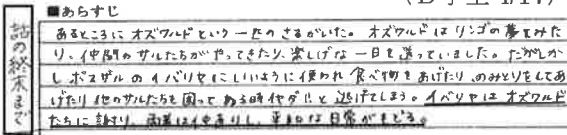
その手立てとして、『本の紹介カード』を提案する。記入する項目は、3点（あらすじ）・（本選びの意図）・（読み聞かせの工夫）である。学生は、項目の記入方法を事前練習した後に、児童書の選定となる。その拠り所として、教科書掲載の児童書を一覽にして学生に示す。そして、学生が自身の蔵書を確認、図書館や書店を探す活動になる。

低学年向けに選んだ1冊に対し、『本の紹介カード』を書くという活動の経緯と考察を述べる。

#### 1) 「あらすじ」記入 (A学生 4/17)



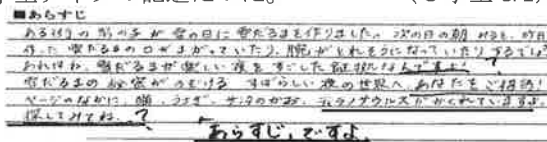
#### (B学生 4/17)



上記2例は、事前練習時の指摘である。A学生は、「あわてんぼうさんは劇に間に合うでしょうか」と、読み手を本に誘う書き方になっている。B学生は、ストーリーを最後まで書いた「あらすじ」になっている。『紹介カード』の目的は、指導者（学生）自身が、選んだ本の内容を「あらすじ」としてまとめることにある。

「話の終末まで」と指摘し、学生に理解を促した。しかし、今回の低学年への本の選定授業では、この理解が曖昧な学生が多く、17名（36名中）は、B

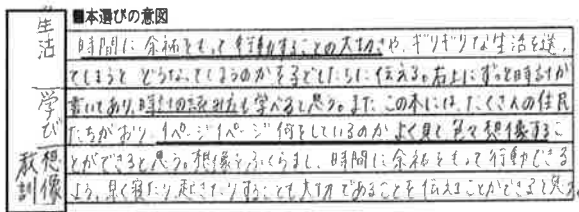
学生タイプの記述だった。(C学生 5/1)



C学生のような、B学生タイプの記述に関しては、朱書きで「あらすじ」ですよ。)指摘した。A学生タイプのようにできた者は、53%であった。

あらすじを簡潔にまとめる力が付くことで、本の内容把握がより確実になると考えている。さらなる手立てを講じていきたい。

2) 「本選びの意図」記入 (A学生 4/17)



A学生は、『あわてんぼうさん』(ライマ作・宝道典子訳 朔北社)で練習カードを書いた。この時、本選びの意図とした観点は、「時間に余裕をもって行動することの大切さ」(子供の生活・教訓)・「時計の読み方」(学び)・「1ページ1ページ何をしているのか」(想像)であった。たった1つの観点で本の選定をするよりも、複数の観点を設定することにより、読み聞かせの工夫に生かせる場面が増えると考えられる。A学生以外に2名の「本の紹介カード」例を示し、観点としては、(子どもへの影響)・(季節感)・(言葉の響き)・(挿絵の美しさ)などを示した。

5月1日の授業において、学生が「本選びの意図」として挙げた観点は、次のようであった。

①教訓

仲間の助け合い・感謝・コンプレックス克服・嘘など心のつまずきに寄り添う・障害者への対応・命・名前の意味・もったいない・思いやり・家族の暖かさ・成長

②子どもの生活と結び

かくれんぼ遊び・給食・学校嫌い・できるようになったこと・お風呂に入る楽しさ・幸せな気持ち

③興味・想像力

文房具のしくみ・スリランカ・トイレの話・異国の風景・自分の成長

④季節感

⑤挿絵

シンプルさ・カラフル・かわいらしさ・仕掛け絵

本・絵のタッチの魅力・図工に生かせる・怪獣

⑥言葉や文体

穏やかな語り・単純な言葉の繰り返し・言葉の変化・ストーリーの短さ

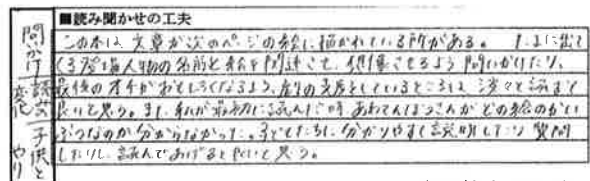
⑦対話

子どもの記憶をよみがえらせる・楽しさを子どもと分かち合う

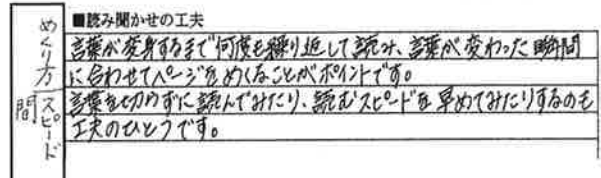
本を選んだ動機は単純であっても、本を読み込み、「本の紹介カード」に記入する活動を通して、意図が明快になってくることが分かる。36人中13名は、観点が1つのみの記述であった。(教訓)のみを本選びの意図として挙げている学生は、読み聞かせまでのつながりが計画的でないことにつながっていると考えられる。実際の読み聞かせ場面で検証したい。

また、⑥及び⑦については、新学習指導要領に掲げる大切な目標(…国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う)であるので、十分学生に意識できるように指導していきたい。

3) 「読み聞かせの工夫」記入 (A学生 4/17)



(D学生 4/17)



A学生は、読み聞かせの工夫の観点に、「問いかけ」・「読みの変化」・「子どもとのやり取り」を挙げている。D学生は、『へんしんトンネル』(あきやま たかし作・絵 金の星社)において、「本のめくり方」と「読むスピード・間」を挙げている。

この観点の挙げ方は、「2)」と関連する。例えばA学生は、「2)」において、「1ページ1ページ何をしているのか」(想像)を意図としているので、ここに関連して、「この本は、文章が次のページの絵に描かれているところがある。たまに出てくる登場人物の名前と絵を関連させ、想像させるよう問いかけた…」とつながって考えていることが分かる。

また、D学生も「2)」において、「何に言葉が変身するか、頭を使って考えるので、…」を意図とし

ているので、ここに関連して、「言葉が変身するまで何度も繰り返して読み、言葉が変わった瞬間に合わせて頁をめくることがポイント…」とつながって考えていることが分かる。偶然読んでしまうのではなく、意図をもって読み聞かせに臨みたい。

以上のことを理解して、低学年への本の選定授業(5月1日)を迎え、学生が「読み聞かせの工夫」として挙げた観点は、次のようであった。

① 声の出し方

強弱・大きさ・テンポ・変化・調子・ゆっくり・落ち着き・スピード・丁寧さ・静かに読み終わる・長い文は短く切り意味のまとまりを意識する・歌うように・ナレーションと会話を読み分ける・擬音を楽しく

② 本の扱い

表紙や中表紙も見せる・横長の本はしっかり持つ・本の高さを子供の目線に合わせる・絵だけのページは動かしてじっくり見せる・めくるタイミングも言葉に合わせて・全員が見えるように持つ

③ 子供とのやり取り

場面に合わせて動きを促す・強調したい部分を指さしする・一緒に言う動きを促す・子供の言葉を拾う・登場人物の気持ちの変化に合わせて問いかける・似ているものを問う・子供の反応を見ながら言葉をかける・考えさせる時間を取る

(E学生 5/1)

■読み聞かせの工夫  
 「おおきくはるいこのこが何層も登り進んで来たため子ども達に  
 驚かすようにする。自分はどうしたらよいかを考えた。声の  
 大きさに気をつける。  
 自分自身の原稿を脱稿されるように優しく、ゆくりと丁寧に読み  
 たいと思います。長い文では短く読むのではやく読み終わる  
 ようにしたいです。」

(F学生 5/1)

■読み聞かせの工夫  
 絵本の文字は小さいのではやく、子ども達の目線と見合わせる読み聞か  
 せたいと思う。子ども達も興味を持って子どもの声も聞き取り機  
 能の高さを確保したいと思う。子ども達に読み聞かせ「おもしろい」  
 と思ってもらえるように、声の抑揚やスピードを調節して聞かせる。  
 子ども達も「おもしろい」を聞き取りたいので、絵本の読み聞かせ  
 したいです。子ども達も興味を持って聞いてほしいです。絵本の読み聞  
 かせは「おもしろい」です。

E学生は、①声の出し方に関して、「語りかけ」「問のとり方」「ゆっくり」「短く切って」と複数の観点を丁寧にあげている。F学生は、②本の扱いに関して、「見やすい高さ」「めくるタイミング」、③に関して、「反応を見ながら」「やり取りをしながら」と、子どもの言葉を引き出そうとする姿勢がうかがえる。この姿勢が新学習指導要領の目標となっていく。

また、「本選びの意図」と「読み聞かせの工夫」の関連性については、22名(36名中)、61%の者が意

識されていた。この割合は、中学年・高学年の読み聞かせと授業を繰り返すことで、克服していきたい。

(3) 「読み聞かせ」活動の実際

「読み聞かせ」の基本的な事柄及び留意点は、岡崎市立根石小学校における実践を基にして指導した。根石小学校は、昭和53年より読書指導を継続研究している学校である。「根石小学校 読み聞かせ心得12か条」を整えていて、学生に紹介した。以下の留意点も指導した。

表2 読み聞かせの留意点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本についているカバーは、予めとっておく。</li> <li>・縦書きは右手に、横書きは左手に持つ。本は上をめくる。本の下を持ち、子供たちに見やすいようにやや下に向ける。</li> <li>・表紙の題、作者名、絵を描いた人を読む。次に見開き(扉)も見せる。中表紙の題、作者名も読む。合紙(扉)を見せ、裏表紙を見せる。表紙とつながっているときは、開いてみせる。</li> </ul>
---

学生は、『本の紹介カード』に記入していくことで、読み聞かせの準備を整え、グループ内で評価し合う。



(5/1 授業の様子)

カードとうまく呼応し、聞き手をひきつける読み聞かせができた学生と、カードに書いたこととずれて読み聞かせが進んだ学生があった。そのずれにも、2パターンあり、書いてあるように読み聞かせられないでいる場合と、書いてあることより個性的に聞き手をひきつけている場合があった。

1) 『本の紹介カード』と呼応 —G学生を例に— 『ぐりとぐらのおきやくさま』(なかがわえりこ・やまわきゆりこ 福音館書店)を選定した。「本選びの意図」には、簡条書きで4観点を示されている。

「読み聞かせの工夫」には、怯えている場面では顔の表情も記し、「メリークリスマス！」の会話部分を

挙げ丁寧な説明が記されている。さらに、子どもに問いかける言葉も用意されていて、学習指導要領に沿う。

■本選びの意図  
内容が短いので、子どもの集中力し、切れにくいと感じたから。  
季節や、長アツ、季節心した痕跡が家にいるのは誰なんだろ？と  
想像力を働かせることが出来るので、月ごとに読んで、楽しいから。  
冬には、クリスマスが近い、サンタさんがいることを知る事が出来るから。

■読み聞かせの工夫  
くりこむのセリフが多いのでシーンに合わせて感情を込めて読み聞かせる。自分たちの家に誰かが入っているシーンでは、「誰かおれがいる」感情を込めながら読む。その後の「クリスマス」子どもの楽しいシーンでは、アツアツは誰か人の印象を強くする為に明るく声のトーンを上げて読む。足跡を推測する場面では、子どもたちにも「誰だろ？」と想像力を働かせる。セリフのくりこむのセリフを工夫する。



(G学生の様子)

カードの記述が上記のように丁寧になされていたので、ページごとに声のトーンを変えながら、時折聞き手と視線を合わせ、間を取りながら、問いかけをする余裕があった。グループ内の学生は思わず、子どもになりきって言葉を返す場面もあった。

2) 『本の紹介カード』とのずれ—H学生を例に—

H学生は、カードには、「歌うところが何度かあるので読み方を少し変えながら楽しさを表現する」とあったが、表情は硬く、真意が伝わりにくかった

■本選びの意図  
絵のタッチと文章が読みやすい感じを出して、自然を感じられるし、おもしろい感じがわいてくる感じがしたから。  
皆一人ひとりの名前には「和味」がのびる感じがして、この絵本の読み聞かせが楽しい。

■読み聞かせの工夫  
登場人物のセリフを出して、一人一人の感情を変えて読む。「おもしろい」「おもしろい」と歌うところが何度かあるので、読み方を少し変えながら、楽しさを表現する。

『ふうとはなとたんぼぼ』(いわむらかずお 童心社)を選定した。「本選びの意図」には、「読んでいて心が温かくなる感じがした」と選書の理由を書き、名前の意味を学ぶ意図も記して、複数の観点が示せた。「たんぼぼ ぼ ぼ ぼ」の部分の読み方を工夫しようとしている。



(H学生の様子)

視線も文字ばかりを追ひ、聞き手の反応を見てにこやかな表情を出すまでに至っていない。H学生の性格と本の表情とがうまく合っていないことも考えられる。

3) 『本の紹介カード』とのずれ—I学生を例に—

■本選びの意図  
絵が好きなようになること、変わったことが絵本の中で登場していき、登場人物という大きな変化を目を向かす子ども達に、「新しいものが生えてきたら自分は大きくなったんだ」ということを知ってもらいたい。また、最後の方はまた理解はできないかもしれないが、さらに大きくなったこの絵本に出会い、大きくなることはどういふことなのかをわかってほしいと思っただけです。

■読み聞かせの工夫  
この本は、見開きページで「できたこと」が書かれています。毎回でも音が響くので、時々子ども達に「みんなはできたこと」と問いかけておくと本の内容に気持ちが入りやすいと思います。言葉に合わせて抑揚やスピードを変えて読んでいきます。

『おおきくなるっていうことは』(中川ひろたか 文・村上康成 絵 童心社)を選定した。「本選びの意図」には、「大きくなったんだ」と自覚していく場面を共有したい旨が記されている。観点はその一つ。「読み聞かせの工夫」には、同じパターンでの繰り返しが単調にならないよう、「問いかけ」ながら読むことが記されている。また、「言葉に合わせて、読み方を変える」とだけ書いてある。



(I学生の様子)

「本選びの意図」には観点が1つ、「読み聞かせの工夫」には、大雑把な記述しかなかったものの、実際には、5名の聞き手をひきつけ、ページが進むごとに、のめり込み大きな笑いがグループ内に起きる場面もあった。たまたま、隣接するグループで同じ本を読む学生がいた。偶然比較できたのだが、読み聞かせには、読む人の個性が出せることを証明できた場面だった。また、「読み聞かせの工夫」に「時折子どもたちに『みんなはできる?』と問いかけてみる」とあったが、その時の表情や視線の合わせ方が絶妙であり、問いかけ方や言葉の拾い方にも巧みさがあった。このことから、観点として、表情や視線・問いかけ方や言葉の拾い方も加えたい。

### 3. 保育内容「表現A」での取り組み

保育内容「表現A」の授業では、保育内容の各領域を総合的に捉え、表現活動を中心に幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導方法を学ぶ。保育者は幼児が心躍るような環境を整えることが求められる。体験的に学習する中で、しっかりと教材研究をおこない、作るだけでなく人前で演じる技術と方法を学び、自分自身が演じることを楽しみ、実践力を身につけることを目的としている。

幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容「表現1ねらい」<sup>3)</sup>は次のように示されている。

#### 1 ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

「内容の取扱い(2)」では、次のように示されている。

- (2) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにする。

子供の表現の仕方は様々である。保育者は、子供の発達、興味や関心に応じて様々な表現を楽しめるように、十分な用具や素材を自由に使えるように準備し、環境を整えることが求められる。保育者は、魅力ある環境を準備しなければならない。

年少児のクラスで保育実習を終えた学生が、「お店屋さんごっこ、ヒーローごっこ、お姫様ごっこといった、ごっこ遊びに実習中何度も子供から誘われた。あれ作って、これが欲しいと言われたが、子供の求めている物を作ることができなかった。でも、先生達はこれがあるともっと遊びが楽しくなるよねと言いながら、朝から準備をしたり、子供の様子を見て、材料を増やしたりしていた。私も、子供の思いにこたえられるような保育者になりたい」と話していた。

ヒーローのポーズを取る子供の腰には、お菓子の箱で作ったヒーロベルトがあったり、画用紙で作

った大きなリボン洋服につけ、ひらひらのスカートをはいて、お姫様気分で園内を歩いている子供もいる。子供は、自分を何かに見立てて遊び、想像する物になりきって遊んでいる。その姿は、表現することを楽しみ、その場所にいる子供同士がストーリーを共有している。そのことから、子供が表現したくなるような環境をつくり、援助することも保育者の役割だと保育実習を経験した学生は、体感するようだ。



写真1 ごっこ遊びが楽しくなる道具

保育内容「表現」は、1年前期の授業である。保育について勉強が始まったばかりの学生が対象だ。最初は、イメージがわからずどのように製作するのか戸惑う学生も多いが、自分が小さい頃のことを思い出したり、学生同士で話し合ったりすることで、子供が作ることができる、「ごっこ遊びが楽しくなる道具」を廃材で製作する。製作するなかで、「こんな材料があればもっと子供が喜ぶかな」と、子供のことを考えながら製作をするようになる。他にも、絵本を基にした、パネルシアターやペープサートを作成する。多くの学生が、幼稚園や保育園時代に好きだった絵本を取り上げて作成する。しかし、パネルシアターやペープサートの作成で一番難しいことは、作成することではなく、絵を出すタイミングに、言葉を合わせなければならないことだ。そのためには、何度も絵本を読み、話を覚えることから始めなければいけない。

「表現」とは、造形や音楽などの芸術的な表現だけではなく、絵本を読んだり、パネルシアターやペープサートを演じたり、保育者の仕草や行動すべてが「表現」である。そう考えると、保育者はいつも子どもの前で「表現」していることになる。保育者の



写真2 岡崎げんき館での活動様子



写真3 岡崎げんき館での活動様子

「表現」が、子供の遊びを充実させる力になるのではないだろうか。そのことから、保育内容「表現」を通して、学生自身が感じたこと、考えたことを表現することで、表現することの楽しさを少しでも感じて欲しい。実際に、春休み「岡崎げんき館」に向き、学生が計画を立て、表現の授業で作成したパネルシアターやペープサートなどを使い、子供や保護者の前で演じる機会を設けている。「岡崎げんき館」で、子供と一体感を体験した学生は、様々な場所でパネルシアターやペープサートなどのシアター活動をおこなっている。

#### 4. 「こども言語」での取り組み

「こども言語」の授業では、言葉の獲得に関する領域「言葉」の意義を理解し、乳幼児期の言葉の発達過程にそった援助や指導方法を学ぶ。また、様々な児童文化財の実践を通して、「知っている」をさらに深め、新しい知見を得て児童文化財の意義を学ぶ。授業では、絵本や紙芝居、素話、手袋シアターやエプロンシアターなどの実演を積極的に取り入れている。また、保育者役の学生と、子供役の学生に分かれてロールプレイングの形式で

行い、保育における児童文化財の有用性を実際に体感できるよう工夫している。

幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容「言葉1ねらい」<sup>4)</sup>は次のように示されている。

##### 1 ねらい

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- (2) 人の言葉や話などをよく聞く、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。

「3 内容の取扱い(3)」では、次のように示されている。

- (3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

絵本や物語、紙芝居の読み聞かせの場面で、子供は様々な表情を浮かべる。読んでいる保育者の声や表情を楽しんでいる子、物語の世界にのめり込む子、話の展開に心を弾ませる子など、一人ひとりの楽しみ方を保育者は受け止めながら、読み聞かせを行っている。実際に古川は、年長児に「大どろぼうホッチェンプロッツ」を3カ月ほどかけて読み聞かせをしたことがある。その頃、「泥棒と警察(どろけい)」という集団遊びが子供達の間で流行っていた。もっと、遊びが発展すると楽しいのではないかと考え、この本を読むことにした。180ページの本を子供が興味をもってくれるか不安だったが、予想とは異なり、大どろぼうホッチェンプロッツや、大魔法使いツワッケルマン、ようせいアマリスをめぐって、少年カスパールとゼッペルが体験する、様々な冒険は子供の心をつかんだ。登園してきた子供から、「ホッチェンプロッツどうなるかな。早く続きが知りたいな」などと、前日の内容に対して、子供が感じたことを伝えてくるのが日に日に増えた。さらに、わずかな白黒の挿絵ではあったが、少年カスパールの赤いトンがり帽子や、少年ゼッペルの緑色のチロリ

アン帽子を作って、登場人物になりきって遊ぶ子供たちの姿もあった。読み聞かせを通して、一緒に聞いたり、見たりすることで、同じ世界を共有する楽しさを子供達は感じていた。

子供達が、想像する楽しさを味わうためには、様々な内容の絵本や物語に保育者が出会わせることが重要である。保育者を目指している学生であっても、絵本に興味がない学生も少なくはない。なかには、幼稚園や保育園でしか絵本を読んだことがない学生や、中学時代に読書感想文を書いて以来、本を読んだことがない学生もいる現状である。授業を通して、まずは多くの絵本に学生が触れる機会が必要である。

## 5. 考察

これまでは、古川、山田が授業で行っている内容を取り上げ報告した。特に山田は、「語彙を増やすことや読解力を養うことといった直接的な効果を目的とせず、学級の子どもたちの実態に合わせ、折に触れて読書に親しませる場合を取り上げる。意図をもった『読み聞かせ』をして本に親ませた結果、子どもたちに読解力が付いたり語彙や想像力が豊かになったりということは、伴ってくる」ことを意識し、「読み聞かせ」に取り組んでいる。しかし、学生が、「本の紹介カード」に書く内容を分析すると、「あらすじ」の基本的な書き方が十分理解されていない。さらに、「本選びの意図」では、本の主題から引き出された項目のみの記述が多く、実際の読み聞かせ場面を想定しての本選びに結び付いていない。また、「読み聞かせの工夫」では、具体的な場面での工夫が記述されていなかったり、言葉を引き出すための工夫に思いが至ってなかったりしている。したがって、「読み聞かせ」活動の授業において、一つずつの弱点克服の手立てを講じなければいけない状況である。

実際、学生は大学に入学してから、保育に関する授業で絵本や紙芝居等に触れてはいるが、「絵がかわいい」、「小さい時に好きだった絵本」という理由で、絵本を選ぶことが多い。そのため、子供はどんな絵本でも喜んでくれると安易な考えで、絵本を選ぶ学生もいる。その結果、保育実習で「絵本の読み聞かせの活動を行う際、『なぜ、その絵本を子供に読みたいの?』と、実習担当の先生から聞かれたとき答え

ることができなかった」と、実習後におこなった事後指導で学生が話していた。

表現の授業で取り組む、パネルシアターやペープサートの作成においても、内容から入らず「かわいい」「楽しそう」という感覚で絵本を選び、子供に伝わるように話を構成することができず、途中で別の絵本に変更する学生もいる。このようなことから、まずは、学生自身が絵本の内容に興味を持たなければならない。そのために必要なことこそが、「子ども文学」の授業を通して行っている、「意図をもった読み聞かせ」ではないだろうか。保育に関する授業でも、意識することで、学生の取り組みに変化が現れるのではないだろうかと考える。

## 6. 今後の課題

保育の現場では、絵本をもとにしてパネルシアターやエプロンシアター、手袋シアターなどの保育教材を利用して保育者が演じることもある。シアターの魅力は、歌ったり踊ったり、応答したりすることで、子供の感じたことを言葉として引き出すことができる。また、保育者の様々な演出を見ることで、「次はなにかな」「どうなるのかな」と、子供の興味や関心が高まる。その結果、子供は集中して保育者の動きを観察し、次の話の展開を想像するようになってくる。さらに、「自分も作りたい」「やってみたい」という意欲に繋がっていく。子供の中には、登場させたいキャラクターを作り、オリジナルの話を展開し、保育者のシアター活動から表現する力を身につける子供もいる。

熊田（2009）によると、

「パネルシアターは保育教材として必要だと思いますか」という問に対して、とても必要であると回答したのは23%（132人）、必要であると回答したのは70.4%（405人）であり、保育士の93.4%がパネルシアターは保育教材として必要であると認識しているという結果であった<sup>4)</sup>。

本学の学生も、保育実習や幼稚園実習でシアターを使った活動をおこなっている。学生の中には、子供の反応を受け止めながら活動することの楽しさを実習で経験し、いくつものシアター作品を製作して



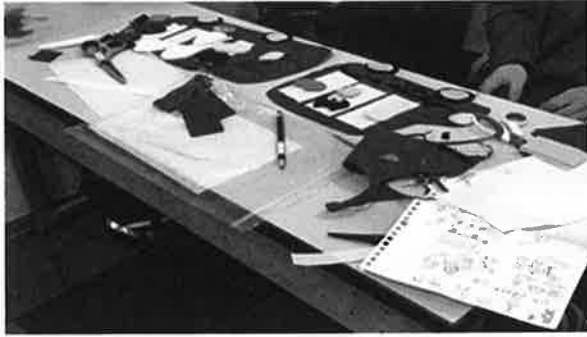


写真4 手袋シアター製作の様子

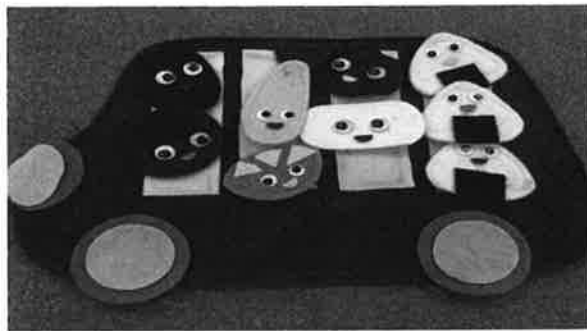


写真5 作品例

いる学生もいる。これらの保育教材は、小学校実習や教師になってからも活用できるのではないだろうか。学生は、保育内容「言葉」や「表現」で様々な保育教材を作成し、実際に活用している。対象年齢は異なるがそこから得た知識や技術をぜひ活用して欲しい。

本研究は、山田が取り組んでいる「読み聞かせ」について、古川が聞いたことから始まった。山田は、長く国語教育に関わり、実践経験が豊富である。山田の担当は小学校の教員を目指す学生、古川の担当は保育者を目指す学生の授業を担当することが多く、接点がなかった。しかし、改訂された小学校学習指導要領においては、園での育ちや学びの姿を踏まえ、それを前提とした1年生の授業づくりの必要性が明示された。まずは、養成校の教員が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した授業を取り入れることで、学生自身が子供に必要な体験が得られるような活動や援助を考えることができるだろう。さらに、小学校の教師を目指す学生は、幼児期の姿を理解することで、子供が今まで学んできたことを踏まえて、授業を展開することができるだろう。そのためには発達段階を十分意識させた、カ

リキュラム編成が必要となる。養成校において、学生は知識や技能を習得することが目的ではあるが、修得した知識や技能をそのまま子供に指導するのではない。授業のなかで、学生が様々な経験を通して、感性を豊かにし、子供の発達や学びの過程を踏まえて、保育・教育を構想する力を身に付けて欲しい。そのためには、教員それぞれの専門性を活かした視点で、学生に指導し、教員同士がお互いの情報を共有し、時には一緒に授業を展開することも必要だと考える。現状として、保育園、幼稚園、小学校とのなめらかな接続が求められている。子供の成長を一本の道筋として、学生が見ていく力を身に付けるためにも、乳幼児期を対象にした授業と、児童期を対象にした授業との関連を教員が学生に対して明快にし、教員が連携した授業内容を検討していく必要がある。

#### 引用文献

- 1) 文部科学省：『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 P.52 (2018)
- 2) 文部科学省：『小学校学習指導要領』p.21 (2018)
- 3) 文部科学省：『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 P.233 (2018)
- 4) 文部科学省：『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 P.213 (2018)
- 5) 熊田武司：保育士のパネルシアターおよびエプロンシアターへの意識について岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要 43, 117-129(2011)

#### 参考文献

- 1) 無糖隆：『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』、東洋館出版社 (2018)

